

# 内科レジデントコース

(作成担当：内科 張 高明)

## 【はじめに】

いまや悪性腫瘍疾患は日本人の死亡原因第一位の極めて重要な common disease のひとつとして位置づけられており、その診断、治療、さらには緩和医療を含めた総合的医療体系の確立は世界的な重要課題である。

悪性腫瘍疾患の種類は極めて多彩かつ症例数は増加しているが、人口の高齢化と共に生活習慣病を合併した症例が決して稀ではなく、従来いわゆる一般内科の基礎および専門知識を兼ね備えた腫瘍内科医の需要は極めて大きい。すなわち、従来臓器縦割りの診療体制では多様化する悪性腫瘍症例に対する十分な対処は不可能であり、各臓器別専門知識に加えて日本臨床腫瘍学会が提言しているような臨床腫瘍内科学の概念の理解と診療への導入が不可欠な時代となっている。

## 【目的】

卒後初期臨床研修を修了し、内科、特に腫瘍内科の専門医を志す医師が、新潟県立がんセンター新潟病院内科、新潟大学医歯学総合病院および新潟県立病院において後期研修を行うことで、日本内科学会認定内科医・専門医、各分野専門医（日本血液学会、日本呼吸器学会、日本消化器病学会など）および日本臨床腫瘍学会専門医の取得を目指す。さらに臨床腫瘍学に関連した課題で学位を取得し、内科医として主要な疾患に対応できるとともに、内科各分野および腫瘍内科専門医として必要な知識、技能、態度を修得し、将来にわたり専門領域で情報交換と生涯学習できる医師の育成を目指す。

## 【特徴】

1. 当院には、長年の日本内科学会認定教育病院としての実績があり、本プログラムは内科専門医制度に対応する。
2. 当院は、全国がんセンター協議会加盟病院、地域がん診療拠点病院、日本臨床腫瘍学会認定研修施設であり、本プログラムは、臨床腫瘍学会専門医制度に対応する。
3. 当院の内科各サブスペシャリティは関連学会の認定施設であり、内科各サブスペシャリティの専門医制度に対応する。
4. 当院内科のみならず、新潟大学医歯学総合病院内科および新潟県立病院内科と連携することで、研修プログラムの強化が図られている。

## 【コース概要】

本プログラムは、3年の後期研修プログラムであり、

1. 臨床腫瘍内科学の基礎となる各分野の腫瘍性疾患の臨床研修を当院の内科3分野で実施する（研修期間：18ヶ月）。
2. 新潟大学医歯学総合病院の内科4分野（第一内科、第二内科、第三内科、神経内科）のうち2-3分野を選択し、各内科担当分野の疾患についての後期内科研修を実施する（研修期間：12ヶ月）。
3. 新潟県立病院（中・小規模一般病院）にて一般内科後期研修を実施する（研修期間：6ヶ月）。

で構成されており、各病院の研修時期の違いによって3コースに分かれる（表参照）

卒後	Aコース	Bコース	Cコース
1年目	卒後初期臨床研修(がんセンター、その他の臨床研修病院)		
2年目	卒後初期臨床研修(がんセンター、その他の臨床研修病院)		
3年目	大学病院内科後期研修	選択科目研修(がんセンター)	選択科目研修(がんセンター)
		選択科目研修(がんセンター)	選択科目研修(がんセンター)
4年目	選択科目研修(がんセンター)	大学病院内科後期研修	選択科目研修(がんセンター)
	選択科目研修(がんセンター)		県立病院研修(地域医療)
5年目	選択科目研修(がんセンター)	県立病院研修(地域医療)	大学病院内科後期研修
	県立病院研修(地域医療)	選択科目研修(がんセンター)	
6年目以降	大学病院医員、大学院での基礎研究、県立病院内科スタッフなど		

卒後初期臨床研修修了後1年間の後期研修を行い、内科医として必要な基本的能力を修得し、2年目（卒後4年目）に日本内科学会認定内科医を取得する。その後、後期研修プログラム終了までの間に内科各分野のうちから将来のサブスペシャリティを決定する。大学院に関しては新潟大学大学院医歯学総合研究科各分野のいずれかに入学し、サブスペシャリティに関連した領域での基礎研究または臨床研究を行う。大学院入学中に博士論文をまとめ学会誌に投稿するとともに、大学病院各分野での専門内科および腫瘍内科としての中期研修を行い、専門医としての臨床技能を修得する。

後期研修3年間終了後の選択としては、

1. 大学病院各分野の医局に入局し、腫瘍内科および各分野の専門医としての臨床技能の向上に努め（5年終了時点で各分野専門医、臨床腫瘍学会専門医の認定試験受験可能となる）、臨床大学院において臨床研究を実施し、博士号取得を目指す。
  2. 大学院基礎分野に所属し、基礎研究に従事する。
  3. 当院を含めた県立病院での臨床研修を継続する。この場合も社会人大学院に入学し、臨床研究をまとめて論文化し、博士号取得を目指す。
- などが想定される。

【主な学会：各自の希望により適宜入会する】

日本内科学会（必須）、日本血液学会、日本呼吸器学会、日本消化器病学会、日本肺癌学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本輸血学会、日本癌学会、日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会、アメリカ癌学会（AACR）、アメリカ臨床腫瘍学会（ASCO）、アメリカ血液学会（ASH）など

【取得可能な専門医：本プログラム終了後、2年の研修継続が必要】

認定内科医（必須、本プログラム研修中に取得可能）、認定内科専門医、血液専門医、輸血学会認定医、呼吸器専門医、呼吸器内視鏡専門医、消化器専門医、消化器内視鏡専門医、感染症専門医、など

【研修コースの内容と特徴】

1. 新潟県立がんセンター新潟病院 内科における研修（18ヶ月）

1) 血液・化学療法部門

血液悪性腫瘍に対する化学療法

造血幹細胞移植療法

自己末梢血幹細胞移植、同種造血幹細胞移植、非血縁者間骨髄移植、臍帯血移植など、全ての造血幹細胞移植が可能（認定施設）

分子標的療法

固形腫瘍に対する化学療法、造血幹細胞移植療法、分子標的療法

化学療法に伴う有害事象の早期診断と対策

終末期症例に対する緩和ケア治療

2) 呼吸器内科部門

日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、

呼吸器疾患の診断、治療、コンサルトが可能となるよう研修する

胸部画像診断に習熟する

気管支鏡による診断と治療を習得する

人工呼吸器管理技術の習得

肺癌を主とした呼吸器悪性疾患の予防、診断、治療の研修

肺癌の早期発見（肺癌CT 検診の実際）、切除不能肺癌の化学療法（臨床試験と新規抗癌剤の治験など）、放射線療法、分子標的療法

化学療法に伴う有害事象の早期診断と対策

終末期症例に対する緩和ケア治療

3) 消化器内科部門

消化管内視鏡検査

消化器癌に対する（放射線）化学療法  
動注治療  
化学療法に伴う有害事象の早期診断と対策  
終末期症例に対する緩和ケア治療

当院の各内科部門は非常に多数の症例の診断、治療を実施しており、臨床経験の必要な症例の受け持ちが可能である。

また、当然のことながら臨床腫瘍学会認定施設であり、種々の悪性腫瘍症例の治療に携われるため、新潟県内で腫瘍内科学を研修する上では最適の研修施設である。

各自の将来の希望専門分野に応じて上記の 3 部門から 1-3 部門を選択するが、臨床腫瘍学会認定医の規定にもあるように、なるべく多臓器にわたる悪性腫瘍症例の治療研修を実施する（1 部門のみの研修を避けること）。

## 2. 新潟大学医歯学総合病院・各内科における研修（12 ヶ月）

新潟大学には第一内科、第二内科、第三内科、神経内科があり、各臓器別診療を行っている。大学病院での研修は以下の特徴を有する。

- 1) 症例数は限られるが、各分野における特殊な症例、難治症例などの入院が多く、複雑な診療体系を習得するのに適している。
- 2) 少ない症例にも中堅医師、上級指導医などが主治医団として配置され、かつ教授回診・助教授回診などを経験できるため、臨床病院とは異なった考え方、アプローチの仕方を習得できる。
- 3) 医局内・大学内での数多くの検討会や講演会などを経験可能であるため、自分の専門分野以外や基礎研究などに触れることが可能である。

原則として、4 内科のうちから 2 内科を選択し、6 ヶ月ずつ研修する。

## 3. 県立病院（中小規模）での研修（研修期間：6 ヶ月）

本プログラムは新潟県・病院局発信の後期研修プログラムであり、がんセンターを含む新潟県立 15 病院における共同プログラムの一環としての研修と位置づけられる。

初期研修 2 年においても地域医療として 1.5-2 ヶ月間の地域医療担当病院での研修が実施されているが、本プログラムにおける研修では、一般内科後期研修であり、地域中核県立病院での内科スタッフとしての活躍が期待される。

背景にも記したように悪性腫瘍はもはや common disease の代表であり、地域病院においても多数の症例の治療を担当する必要があるが、がんセンター・大聖病

院で習得した知識を生かし、かつ一般内科としての後期研修も同時に実施可能な環境であるため、内科専門医としての修練を積むには最適の機会である。

#### 【研修カリキュラムについて】

研修カリキュラムについては内科認定医・専門医、各分野認定医・専門医、臨床腫瘍専門医取得のためのカリキュラムを活用し、3年間の研修中に資格試験受験可能な症例を経験する。

#### 【後期研修プログラム終了後について】

本プログラムは3年で終了するため、終了時には初期研修も含め5年の研修が終了することとなる。現在の内科学は日進月歩であり、各分野とも目覚ましい進歩を遂げている。各自の将来の専門分野を決定するには色々な分野を経験することが必要であるが、腫瘍内科学を基礎として各自が本当に自分がやりたい専門分野を決定していただきたい。その意味で、研修終了後の進路については種々の option があり、各自の実力を遺憾なく発揮できるように back up していく方針である。